

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 23 年 5 月 26 日 (2011.5.26)

【公開番号】特開 2009-33712 (P2009-33712A)

【公開日】平成 21 年 2 月 12 日 (2009.2.12)

【年通号数】公開・登録公報 2009-006

【出願番号】特願 2008-108295 (P2008-108295)

【国際特許分類】

H 0 4 N 5/93 (2006.01)

H 0 4 N 5/76 (2006.01)

G 1 1 B 20/10 (2006.01)

H 0 4 N 7/26 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 5/93 Z

H 0 4 N 5/76 A

G 1 1 B 20/10 3 2 1 Z

H 0 4 N 7/13 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 4 月 7 日 (2011.4.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

画面内符号化画像データを含む符号化動画画像データにおいて、画面内符号化画像データを選択的に復号して出力する再生手段と、

画面内符号化画像データのデータサイズが閾値以下であるか否かを判定する判定手段と

、
復号対象の画面内符号化画像データのデータサイズが前記閾値以下でないと前記判定手段により判定された場合、当該復号対象の画面内符号化画像データの復号及び出力を行わないように前記再生手段を制御する制御手段と、

を備えることを特徴とする再生装置。

【請求項 2】

前記制御手段は、復号及び出力が行われない前記復号対象の画面内符号化画像データの代わりに、当該復号対象の画面内符号化画像データの直前に復号された画面内符号化画像データを出力するように前記再生手段を制御することを特徴とする請求項 1 に記載の再生装置。

【請求項 3】

復号対象の画面内符号化画像データのデータサイズが前記閾値以下でないと前記判定手段により判定された場合、当該復号対象の画面内符号化画像データの前後の復号対象の画面内符号化画像データの間にある画面内符号化画像データから、データサイズが前記閾値以下の画面内符号化画像データを検索する検索手段を更に備え、

データサイズが前記閾値以下の画面内符号化画像データが前記検索手段により発見された場合、前記制御手段は、復号及び出力が行われない前記復号対象の画面内符号化画像データの代わりに、当該発見された画面内符号化画像データを復号して出力するように前記再生手段を制御する

ことを特徴とする請求項 1 に記載の再生装置。

【請求項 4】

前記制御手段は、前記発見された画面内符号化画像データの、前記前後の復号対象の画面内符号化画像データの間における位置に対応するタイミングで、前記再生手段の出力を、前記発見された画面内符号化画像データの直前に復号された画面内符号化画像データから復号された前記発見された画面内符号化画像データに切り替えるように前記再生手段を制御することを特徴とする請求項 3 に記載の再生装置。

【請求項 5】

復号済みで未出力の画面内符号化画像データの数が多いほど前記閾値が大きくなるように前記閾値を変化させる変化手段を更に備えることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の再生装置。

【請求項 6】

前記再生手段が前記符号化動画像データから画面内符号化画像データを取得する速度が高速なほど前記閾値が大きくなるように前記閾値を変化させる変化手段を更に備えることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の再生装置。

【請求項 7】

前記符号化動画像データは、画面内符号化画像データのデータサイズの範囲を示す範囲情報を、画面内符号化画像データそれぞれについて含み、

前記判定手段は、判定対象の画面内符号化画像データのデータサイズを前記範囲の最大値として前記判定を行う

ことを特徴とする請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に記載の再生装置。

【請求項 8】

再生装置の再生手段が、画面内符号化画像データを含む符号化動画像データにおいて、画面内符号化画像データを選択的に復号して出力する再生工程と、

前記再生装置の判定手段が、画面内符号化画像データのデータサイズが閾値以下であるか否かを判定する判定工程と、

前記再生装置の制御手段が、復号対象の画面内符号化画像データのデータサイズが前記閾値以下でないと前記判定工程において判定された場合、当該復号対象の画面内符号化画像データの復号及び出力を行わないように前記再生工程を制御する制御工程と、

を備えることを特徴とする再生方法。

【請求項 9】

コンピュータを、

画面内符号化画像データを含む符号化動画像データにおいて、画面内符号化画像データを選択的に復号して出力する再生手段、

画面内符号化画像データのデータサイズが閾値以下であるか否かを判定する判定手段、

復号対象の画面内符号化画像データのデータサイズが前記閾値以下でないと前記判定手段により判定された場合、当該復号対象の画面内符号化画像データの復号及び出力を行わないように前記再生手段を制御する制御手段、

として機能させるためのプログラム。

【請求項 10】

前記制御手段は、データサイズが前記閾値以下であると前記判定手段により判定された 1 つの画面内符号化画像データの復号及び出力を行うように前記再生手段を制御することを特徴とする請求項 1 に記載の再生装置。

【請求項 11】

前記制御手段は、

前記符号化動画像データの先頭から順に、データサイズが前記閾値以下である画面内符号化画像データが発見されるまで前記判定を行うように前記判定手段を制御し、

前記発見された画面内符号化画像データを復号して出力するように前記再生手段を制御する

ことを特徴とする請求項 10 に記載の再生装置。

【請求項 1 2】

前記制御手段は、画面内符号化画像データを含む複数の符号化動画像データそれぞれに対して、前記 1 つの画面内符号化画像データの復号及び出力を行うための前記制御を行うことを特徴とする請求項 1 0 又は 1 1 に記載の再生装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

また、第 2 の本発明は、再生装置の再生手段が、画面内符号化画像データを含む符号化動画像データにおいて、画面内符号化画像データを選択的に復号して出力する再生工程と、前記再生装置の判定手段が、画面内符号化画像データのデータサイズが閾値以下であるか否かを判定する判定工程と、前記再生装置の制御手段が、復号対象の画面内符号化画像データのデータサイズが前記閾値以下でないと前記判定工程において判定された場合、当該復号対象の画面内符号化画像データの復号及び出力を行わないように前記再生工程を制御する制御工程と、を備えることを特徴とする再生方法を提供する。